

著者のWEB上にサンプルテキスト、サンプル画像、サンプルepub用入力データがありますので、ダウンロード後、必要な部分を自分用に修正しながらお使いいただくと便利です。

WEB: <http://btmbox.a.la9.jp/index9.xhtml>

Jibuzが動作するフォルダ構成：

入力文書を含むフォルダをmyworkとします。

myworkは他の名前でもかまいません

myworkフォルダはどこに置いてかまいません。

mywork : 入力文書 (常にinput.texと名付けます) を置きます。

mywork/mydata : 自分用のデータを入れます

mywork/mydata/fig-src : 自分用の画像を入れます

mywork/mybook : epubが生成されます。フォルダは自動的に作られます

mywork/temp : 作業時の一時ファイルが保存されます。フォルダは自動的に作られます

動作：

- ・ 入力テキスト文書を縦型日本語xhtmlと縦型epub3に変換します。
- ・ 入力文書が存在するフォルダ内にmybookフォルダを自動的に作り、その中にepub材料とepubを生成します。

使用法：入力文書からepubを作る時

- ・ Jibuzを起動して、画面最上位置の枠内にmyworkフォルダをドロップするか、あるいは、「入力フォルダを選択」ボタンを選択して、myworkフォルダを選択します。
- ・ 必要ならばオプションを選択します。
- ・ 変換ボタンを押します。

使用法：mybookに存在する変換済みのepub素材からepubを作る時

- ・ Jibuzを起動して、「ePubのみ再変換」ボタンを選択します。
- ・ 「epub compile」画面の最上位置の枠内にmybookフォルダをドロップするか、あるいは、「mybookフォルダ選択」ボタンを選択して、mybookフォルダを選択します。
- ・ 再変換ボタンを押します。

自分で準備する入力文書について：

- ・ 自分の入力文書 (テキストファイル) は、input.texと名をつけて、myworkフォルダ内に置きます。テキストファイルの識別子txtをtexに変更し、名前をinputにします。
- ・ 日本語コード utf-8、改行コード LFとします。
- ・ テキストの加工には、Texのコマンドを流用します。下記あるいは著者の案内webを御覧ください。
- ・ Texで記述した文書は、入力文書とすることができます。詳細は著者の案内webを御覧ください。
- ・ 何の加工もしない文書も変換します。アプリが用意している「表紙」「タイトル」をつけて、「第1章 仮の章」と名付けられてepubが生成されます。既にテキスト文書がある場合には、ここを出発点にして、加工を加える方法もあります。

自分で準備するepub入力用データ：AAA-TITLEdata.txt

- ・ epub入力用データ (AAA-TITLEdata.txtと名付けます) をmywork/mydata内に置きます。
- ・ AAA-TITLEdata.txt の並びは次の通り。区切りは半角スペースとし、1行に書きます。
題名
著者名
identifier (会社名など)
表紙に使う画像の名前 (cover.xhtmlの中で使う。本アプリではcover.jpg)
epub自体の名前 (識別子epubを含まない)
- ・ 各項目にはスペースを含まないようにします。
- ・ mywork/mydata内にAAA-TITLEdata.txtが存在しない時は、アプリ内部データで代用します。

自分で準備する入力文書に含まれる画像：

- ・ 入力文書に出てくる画像の順にimg001.jpg, img002.jpgなどと名付けて、mywork/mydata/fig-src内に置きます。画像名は「img」+「3桁数字」+「.jpg」とします。3桁数字は、「001」から順番につけます。
- ・ 画像はjpgとします。
- ・ 入力文書中の画像名は変換には使用しませんので、適当な名前でもOKです。内容を示唆する名前などが使えます。
- ・ Jibuzを走らせると、入力文書内の画像と、用意すべき画像番号名との対照表 (AAZ-FigLists.txt) がmywork内に出来しますので、参考になります。

自分で準備するePub表紙と表紙画像：

- ・表紙用xhtml（通常は修正不要です）：`mywork/mydata/cover.xhtml`：存在しない場合には、アプリ内部ファイルを使います。
- ・`cover.xhtml`が参照する表紙画像：`mywork/mydata/fig-src/cover.jpg`：存在しない場合には、アプリ内部ファイルを使います。サンプル画像は、RGB、1612x2282のjpgです。画像サイズは適当な範囲内で変更可能です。
- ・自分用に、`cover.jpg`を置き換えます。

自分で準備するePubタイトルページ：

- ・ePubタイトルページ用xhtml：`mydata/node001-titlepage.xhtml`：存在しない場合には、アプリ内部ファイルを使います。
- ・自分用に、`node001-titlepage.xhtml`を編集します。ePub変換時には、これをコピーして、`node001.xhtml`として組み込みます。

自分で用意する外字画像：

- ・外字フォントはpng画像で、`mywork/mydata/fig-src`内に置きます。
- ・外字画像名は先頭に「gaiji_」をつけたpngとします。例：`gaiji_u979f.png`
- ・「入力文書中に使う対応表現」は「KGJI」+「㍻桁数字」とします。例：`KGJI011`
- ・`mywork/mydata`フォルダにある外字の対応表 `GAJIItable.txt` を編集します（案内webからダウンロードできます）。
- ・このテーブルには一行ごとに、「入力文書中に使う対応表現 画像名 外字フォントの読み方」を記述します。
 - ・記述例：`KGJI011 gaiji_u979f.png かく`
- ・ルビも使えます。

Jibuzの変換について：

- ・章、節、索引、参照、参考文献、写真、箇条書き、ルビ、引用、外字、傍点、縦中横に対処します。
- ・表紙、タイトル、まえがき（章節番号無し）、あとがき（章節番号無し）に対処します。
- ・テキストの日本語モードはutf-8、改行モードはLF（ユニックス）です。
- ・変換のオプション：縦中横をするか、テーブルの縦中横は半角か全角か、デバッグモード。

縦中横オプション：

- ・オプション「する」を選ぶと、章節番号や参照番号を縦表示にします。
- ・本文中の参照章節を縦中横させるには、「\ref{ }章」あるいは「\ref{ }節」などと、「章」あるいは「節」を付加します。
- ・本文中の参照図番号を縦中横させるには、「図\ref{ }」などと、「図」を付加します。
- ・テーブル（目次：`TableOfContents.xhtml`）の章節数字の縦中横について
 - ・オプション「する」を選びます。
 - ・変換オプションの「半角」を選ぶと半角数字を使います。
 - ・変換オプションの「全角」を選ぶと全角数字を使います。この選択では`mydata/TablenumTatereplace.sed`を変換に使います。変換が不十分な場合には、`mydata/TablenumTatereplace.sed`をエディタで修正して下さい。具体的には、変換されない章節番号に対応する一行を適切な位置に付加します。例えば、既に存在する章節番号変換用の一行をコピーペーストしてから、章節番号を希望の数字になおします。`TablenumTatereplace.sed`が`mydata`内に存在しない時は、アプリ内部のデータを使います。

DEBUGモードオプション：

- ・入力文書が存在するフォルダ内に`temp`フォルダを自動的に作り、その中に変換作業中の一時ファイルを保存します。
- ・「オフ」を選ぶと、作業終了時に`temp`フォルダ消去されます。
- ・「オン」を選ぶと、作業終了時に`temp`フォルダが残ります。

Jibuzが変換に使用するコマンド一覧：

- ・`{まえがき}`
- ・`\chapter{まえがき}`
- ・`\chapter*{まえがき}`
- ・`\chapter{あとがき}`
- ・`\chapter*{あとがき}`
- ・`{あとがき}`
- ・`\chapter{ }` 章
- ・`\section{ }` 節
- ・`\subsection{ }` サブセクション
- ・`\begin{quote}` 引用初め
- ・`\end{quote}` 引用終わり
- ・`\begin{itemize}` 項目始め。itemize は3重まで可能
- ・`\item` 各項目
- ・`\end{itemize}` 項目終わり
- ・`\label{ }` 章節目等参照名

- ・ \ref{ } 章節図等参照
- ・ \printindex 索引を作る
- ・ \index{ @ } 索引項目
- ・ \index{ @ !--- @ } 入れ子索引項目
- ・ x() ルビをつける:例: x巧言(こうげん)x令色(れいしよく)
- ・ \begin{thebibliography} 参考文献をつくる
- ・ \bibitem{ } 個々の参考文献
- ・ \cite{ } 参考文献を本文中で参照
- ・ \bou{ } 傍点を付ける:例: \bou{熱い印象を持つてゐた}
- ・ \includegraphics{ } 図と写真
- ・ \caption{ } 図のキャプション
- ・ \label{ } 図参照名
- ・ \\ 改行
- ・ 空行

Jibuzが使用する変換用コマンドの具体例:

- ・ 章: \chapter{世界} 注: 章の通し番号はアプリが付けます。
- ・ 節: \section{宇宙の始まり} 注: 節の通し番号はアプリが付けます。
- ・ 小節: \subsection{縦中横テスト} 注: 小節の通し番号はアプリが付けます。
- ・ 索引: 天国\index{てんごく@天国}にいけるか
索引を実際に出現させるには、文書最後尾に \printindex を付加します。
- ・ 参照: labelとref
章節を本文中から参照する例: 章節タイトルの直後にlabelを付け、本文中でrefによりlabel名を参照します。
\chapter{世界}
\label{chasekai}
\section{元素の起源—索引参照}
最初の元素のもとはどこに。(第\ref{chasekai}章)
- ・ 参考文献: 文書末に参考文献を記述します。
\begin{thebibliography}
\bibitem{shinrongo}吉田賢抗、新釈漢文体系一 『論語』、明治書院、1960年
\bibitem{bunko}金谷治、『論語』、岩波文庫、1963年
参考文献を本文中で引用する例:
世界は神が創造した.\cite{shinrongo}\cite{bunko}
- ・ 写真
\includegraphics{photo1}
\caption{夢の海の桜か。地獄の池か。}
\label{p1-tate}
写真を本文中で引用する例:
図\ref{p1-tate}参照のこと。
- ・ 箇条書き
\begin{itemize}
\item あさ
\item ひる
\item ばん
\end{itemize}
- ・ ルビ: xと半角カッコを使います。
x世界(せかい)はx神(かみ)がx創造(そうぞう)した。
- ・ 引用
\begin{quote}
楠緒子さんは美しい上に粋な風がすきでいつも流行の先端をゆき、金銀はりわけの時計の鎖を衿からかけたりしまし
た。
\end{quote}
- ・ 外字
本文中の記述例: KGJI011とは毛や肉をとり去った皮。
変換用テーブルGAIJItable.txtの記述例: KGJI011 gaiji_u979f.png かく
- ・ まえがき・あとがき
これらを章の通し番号に数えたくない場合には次のようにします。
{まえがき}
{あとがき}
- ・ 傍点
けれども其当時は\bou{頭の中へ焼き付けられた様に}、\bou{熱い印象を持つてゐた}。

添付サンプルについて：

サンプルを使う場合、そのサンプルを複製などしてから、名前をinput.texに換えて下さい。

- ・ input.tex：最初のテスト用。kz00.texと同じものです。
- ・ kz00.tex：kz13とほぼ同じ。kz00.tex内の簡条書きループは1段なので、ePub Checkerをパスします。他のサンプルでは、3段の簡条書きループを使っていますので、ePub Checkerではエラーとなります。

- ・ kz1.tex：章名と節名の2行の「はじめてみよう」サンプル
- ・ kz2.tex：段落（改行）
- ・ kz3.tex：索引
- ・ kz4.tex：参照用ラベル
- ・ kz5.tex：参考文献
- ・ kz6.tex：写真
- ・ kz7.tex：簡条書き
- ・ kz8.tex：ルビ
- ・ kz9.tex：引用
- ・ kz10.tex：外字
- ・ kz11.tex：まえがき・あとがき
- ・ kz12.tex：傍点
- ・ kz13.tex：縦中横。kz13.texはkz1-kz12に含まれる変換例を含んでいます。
- ・ kztext.tex：Tex加工コマンドを含まないシンプル文書

添付サンプルから生成されるepubは、そのままマックのiBooks あるいはiPadを使ってテスト可能です。

Jibuzの使用例：

エディタ（miなど）で入力文書を編集します（myworkフォルダ内）。必要な時は、mywork/mydataとmywork/mydata/fig-srcに自分用データを置きます。Jibuzを起動して、myworkフォルダをウィンドウにドロップします。変換ボタンを押します。ブラウザで mywork/mybook/OEBPS/text にある TableOfContents.xhtml を開きます。iBooksにepub文書をドロップして、チェックし、読みます。必要な時は、ePub Checkerを起動してから、epub文書をドロップして検査します。

バックスラッシュに関してトラブルがある場合：

本アプリで使用する文章加工用コマンドは、コマンド先頭にバックスラッシュ「\」が使われています。システムが違ったり、使用フォントが違ったりすると、バックスラッシュの表記が¥に変わるとか、見かけは同じような¥表示でもうまく動作しないとか、いろんな事態が予想されます。筆者が使うエディタ環境では、英数半角フォントにMonacoを指定して、半角英数字で「¥」を打つと「\」が表示されるようにしています。

本アプリ Jibuz の著作権は著者に属します。

2015年5月

web: <http://btmbox.a.la9.jp/index9.xhtml>

e-mail: kozan27ho@gmail.com

著者：加藤湖山